

# 来週の『売り物記事』はこれ



2017年2月17日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 保育事故を繰り返させない 2人の母の思い 19日(日)



保育施設で園児が亡くなる事故は毎年十数件起きています。悲劇を繰り返すまいと、我が子を失った2人の母親が立ち上がり、やがて大きな広がりとなって、事故の検証制度や施設への抜き打ち調査といった再発防止策を実現させました。愛知県の栗並えみさん(37)は1歳5カ月の長男寛也ちゃんを失いました。保育園でおやつのカステラをのどに詰まらせて



意識不明となり、39日後に亡くなったのです。また、さいたま市の阿部一美さん(38)の長女美月ちゃん(当時1歳7カ月)は認可外保育施設でお昼寝中に命を落としました。保育士一人一人に当時の状況を聞くと、美月ちゃんは昼寝中に泣き出したため、バスタオルと子ども用毛布、綿布団をかぶせられ、無理に寝かしつけられていたという証言が出てきました。強い怒りを覚えながらも「再発防止のために事故の検証が必要」と活動を続ける2人の母の思いに迫ります。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

## 「&TOKYO」って知ってますか？

### 自治体ロゴ 愛される条件とは

夕刊特集ワイド 20日(月)



東京都が観光PR用に作成したロゴマーク「&TOKYO」。舛添要一前都知事が残した「遺産」ですが、小池百合子知事=写真=は、認知度の伸び悩みなどもあって見直し作業を進めています。ロゴに力を入れるのは首都だけではありません。過疎に歯止めがかからない地方自治体にとってPRの成否は死活問題につながります。コピーライターやまちづくりの専門家に、「愛されるロゴ」の条件とは何なのかを尋ねました。

## アレルギー対応の加工食品

くらしナビA面 21日(火)

食物アレルギーを持つ子どもたちにとって、食卓を囲む家族と同じものを食べられることは大きな喜びです。最近は食品メーカーがアレルギーフリーの加工食品に力を入れており、上手に使いえば大人も子どもも楽しめる食事を手軽に作れるようになってきました。アレルギー食材をできるだけ含まない加工食品を使ったお勧めレシピを管理栄養士に教えてもらいました。



## 寄席を楽しむ

くらしナビA面 22日(水)



落語界が活況を呈しています。真打ち昇進前の若手落語家が活躍し、若い客が演芸場で長い行列をつくっています。ふらっと立ち寄って落語を聞ける場も増えてきました。なぜ今、落語が人気なのでしょう。SNSで誰とでもつながれる時代になり、文字のやりとりは増えてきましたが、会話でのコミュニケーションは不足しているとの指摘もあります。現場取材しました。



TOKIOのリーダー、城島茂さんは1988年12月、東京ドームにマイケル・ジャクソンのコンサートを見に行きました。当時、高校3年生でした。隣の席には、同じ事務所に所属する16歳の少年。ルックスはもとより、ダンスと歌唱力のレベルは衝撃の高さでした。その少年の名は「木村拓哉」。自分のスタイルを貫く彼の姿に城島さんが感じたものは――。



## 「一億総活躍社会」の一丁目一番地

### 最低賃金引き上げで「働き方」はホントに変わる？

オピニオン面 [論点] 22日(水)



時給換算で823円――。労働者の生活を守る法定最低賃金の全国平均額です。政府が進める「働き方改革」で、安倍晋三首相は1000円への段階的引き上げを目標に掲げています。低所得の非正規雇用がまん延する中、最低賃金引き上げは生活向上につながるのでしょうか。そして、中小企業の雇用や経営にどんな影響をもたらすのでしょうか。識者らに聞きました。

時代が見える――。オピニオン面にご期待ください。

## 生きる――。がんと就労対策

### 国立がん研究センター中央病院院長の西田俊朗さん

オピニオン面 [そこが聞きたい] 23日(水)

がんになっても安心して暮らせる社会の構築を目指す――。昨年暮れにがん対策基本法が10年ぶりに改正され、就労対策などが初めて盛り込まれました。毎年85万人以上ががんと診断され、とりわけ「働く世代の病気」とも言われています。がん治療の中核を担う国立がん研究センター中央病院院長の西田俊朗さん(60)さんに今後の課題、取り組みなどについて聞きました。

